

中村学園大学短期大学部幼児保育学科 令和 5 年度「幼花」卒業研究論文集

指導教員 橋本弘治

1. 整形

高島 凜, 宮崎 菜緒, 横尾 りの, 岩瀬 ひらり, 上野 万菜美

p 1 – 10.

概要

最近、若者の中で整形が流行っており、様々なコンプレックスを感じる子どもへの影響が議論されている。そこで、本研究では日本の整形の現状や瀬英携帯国と知られる韓国の整形事情について考えると共に、子どもの整形について考察していく。

2. 子どもを縛る環境改善

長 威央莉, 花田 歌音, 馬場 妃花, 石井 達徳, 作本 善空

p 11 – 18.

概要

今現在、学校生活を送っている子ども達に対して多くの縛りがあることが目立っており、そこには必要ないものや過剰に反応しすぎているものがあることも事実である。その結果、子どもたちの生活する環境で課題とされている「ジェンダー」や「ランドセル」といったものに加え、学校で定められる「学則」が大人の都合によって子どもたちの人権を侵害している可能性も否定できない状況である。そこで、本研究では女性の美意識事情、中学、高校の校則問題、小学校の学則問題に着目し、子ども大人それぞれにとってストレスフリーな生活を送る為には何が必要であるかについて考えていく。

3. カエル化

井上 彩綺, 仲村 芽衣, 平川 史翔, 藤田 紀乃

p 19 – 23.

概要

最近、若者の間でカエル化が話題となっており、若者の恋愛観の変化が社会問題となりつつある。そこで、本研究ではカエル化の実態について考察すると共に、アンケート調査からその原因について考えていくことにする。

4. ダイエット

堀江 結衣, 松瀬 愛佳, 森 彩奏, 良永 桃佳

p 24 – 31.

概要

最近では、体型を気にせず洋服を選べるようになりたいという願いからダイエットをする女性が増加している。しかし、過度なダイエットは身体に大きなデメリットを及ぼす危険がある。そこで、本研究では世界と比較した日本のダイエットの現状について考察すると共に、ダイエットの主な要因として考えられる美について、真の美とはなんであるかについて考えていく。

「幼花」論文集は保育・幼児教育を中心として、保育者を目指す学生が真摯に取り組んだ卒業研究の成果集です。当研究室としましては、この「幼花」論文集が教育・研究をはじめとして、子ども達を取り巻く環境改善の一助となることを希望しております。

お問い合わせ先

〒814-0198 福岡市城南区別府 5 丁目 7-1 中村学園大学短期大学部
幼児保育学科 橋本弘治研究室 mail:hashimot@nakamura-u.ac.jp

URL <http://www.nakamura-u.ac.jp/~hashimot/members/members.html>



整形

高島 凜 宮崎 菜緒 横尾 りの 岩瀬 ひらり 上野 万菜美

中村学園大学短期大学部幼児保育学科

概要

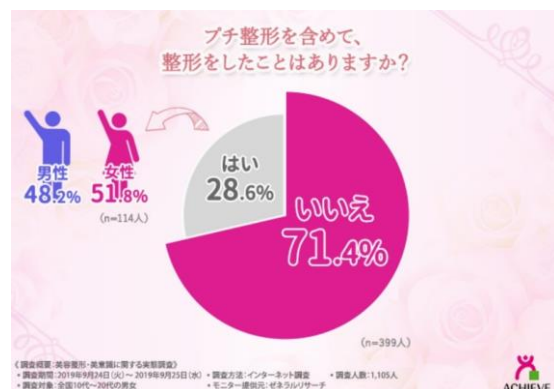
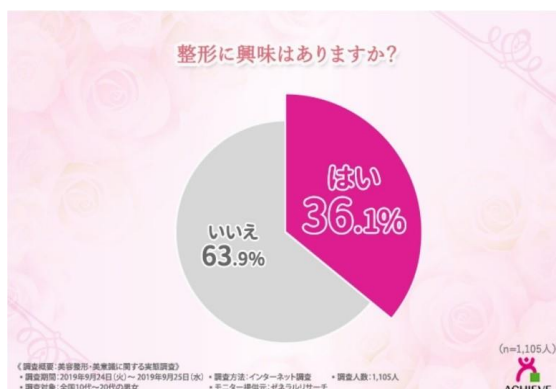
最近、若者の中で整形が流行っており、様々なコンプレックスを感じる子どもへの影響が議論されている。そこで、本研究では日本の整形の現状や瀬英携帯国と知られる韓国の整形事情について考えると共に、子どもの整形について考察していく。

1章 美容と整形

日本人の多くの人が整形に興味を持っており若い人の美容整形が増えている。そこで、この章では美容整形の実態を調査すると共に、その背景について考察していくことにする。

1.1 節 美容整形の実態

株式会社アチーブ[2]が全国の10代～20代の男女1,105人に「美容整形・美意識に関する実態調査」によると「整形に興味はありますか?」という質問に対して、36.1%の人が「はい」と回答した。また、「プチ整形を含めて、整形したことはありますか?」という質問に対して、71.4%の人が「いいえ」と回答した。以上の結果から整形に対して多くの人が興味を持っているものの、実際に整形をした人は少ないことが分かる。

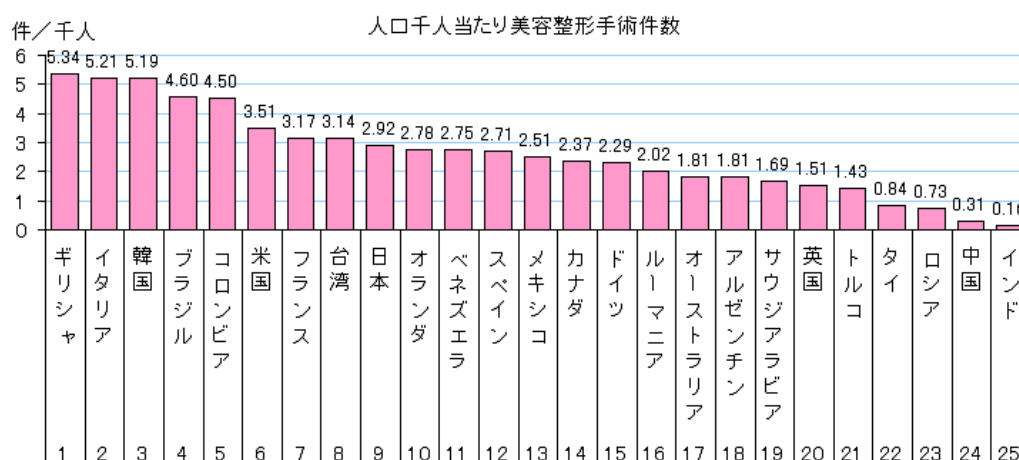


整形をしたことがあると回答した内訳としては、女性：51.8%、男性：48.2%という結果となっている。整形している割合は男性よりも女性の方が多いが、男性も半数近くいる状況である。また、整形をしたことがない理由については、様々な理由があげられる中で、費用に関する懸念が圧倒的に多いようである。

お問い合わせ先：〒814-0198 福岡市城南区別府5丁目7-1 中村学園大学短期大学部
幼児保育学科 橋本弘治研究室 mail:hashimot@nakamura-u.ac.jp



次に、2011 年の美容整形市場の国別ランキングより人口千人当たり美容整形手術件数としては、1 位が 5.34 件のギリシャ、2 位は 5.21 件でイタリア、3 位は 5.19 件で韓国であり、日本の千人当たりの美容整形手術件数は 2.92 件であった。この結果から、比較的陽気な国で美容整形手術が多いことが分かるが、アジアの国としては韓国が突出して上位にあり、一方で中国は下位であり、日本や台湾はベスト 10 に入っている状況となっている。



(注) 美容整形件数は整形医による施術のうち外科手術を伴わない施術を除いた整形手術(Surgical Procedures)の件数
 (資料) 国際美容外科学会(ISAPS)ウェブサイト、人口は世銀WDI(台湾は中国統計年鑑)

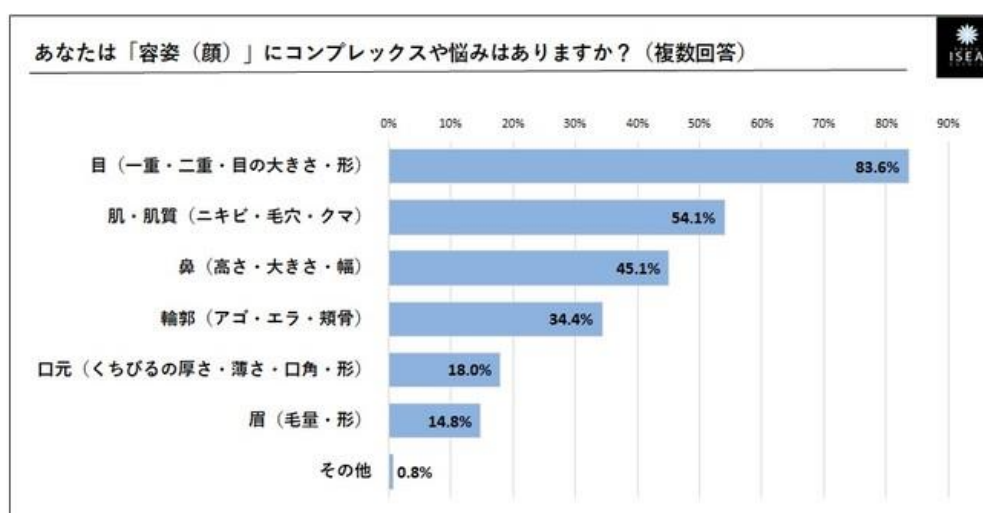
社会実情データ「美容整形市場の国別ランキング (2011 年)」[7]

また、2011 年には日本の美容整形手術件数は 37 万件であったが、日本経済新聞[8]によると 2017 年では日本美容外科学会の国内の医療機関を対象にした調査で美容整形の施術数は 190 万件以上に達したことが分かった。これは米国 (422 万件)、ブラジル (252 万件) に次ぐ世界 3 位という結果である。美容整形にはメスを使う外科手術のイメージがあるが、日本では外科手術は少数派であり、施術数に占める外科手術の割合は 15%と世界全体を大きく下回っている。これは日本ではしわやたるみを抑える薬剤注射やレーザー脱毛などのいわゆる「プチ整形」が施術の主流であることを示している。世界全体では乳房やお尻など全身が手術の対象となっているが、日本では

顔と頭部に手術の 92%が集中しており、手術する部位に海外と大きな差が見られた。特に、日本では一重を二重にするなど瞼や目に関する施術は全体の 6 割近くを占めている。一方、世界では豊胸や脂肪吸引がそれぞれ十数パーセントを占めたのに対して、日本は 3%程度に留まっている。

1.2 節 若い女性の美容と整形

10 代女性 122 名に聞いた容姿の悩みに関するアンケートで 8 割以上が「目」にコンプレックスや悩みがあると回答した。このことから日本人の若い女性の意識として「目」に対する悩みが多く、それが「目」の整形へ繋がっていることが考えられる。[5]



但し、新型コロナウイルスが流行して以降、世界各地で美容整形手術が増えている。マスクで施術部分を隠せることと在宅勤務やリモート授業が増えたのが理由として考えられる。日本ではコロナ以前は整形をする場所の割合は目が 8 割、口や鼻などのマスク内が 2 割だったがコロナ以降は逆転し、マスク内が 8 割に変化した。この理由としては、やはりマスク生活で手術後のあとが隠せることやリモート授業になり人と会わずに済むという理由などが考えられる。また、鼻や口にコンプレックスを持ち、マスクを取れないという人もいる。しかし、コロナなど関係なく SNS などで整形に関する情報を発信する方が増え、気軽に手術を受けようという人が増えていることも理由として挙げられる。また、コロナの影響で多くの飲食店が閉店してしまった。その後に美容整形クリニックができており、このように整形をしやすい環境になってきていることも大きく関係しているだろう。[6][9][10]

日本のアニメの絵柄は以下のように変わっている。[3]

流行の絵柄は およそ10年ごとに大きく変わっていく

例:「瞳」の描き方



始めは、濃くはっきりと目元が描かれていたようであるが、近年は薄く人間味の帯びた目元になっている。様々な移り変わりはあるものの日本の漫画・アニメの特徴は海外と比べて目元が大きく描かれることである。今の20代の幼少期に人気だったアニメ[11]を調べると主に「プリキュア」、「セーラームーン」、「魔法少女まどか☆マギカ」、「ラブライブ」が人気であった。どれも女性が活躍するアニメであり、これらのアニメや少女漫画で活躍する女性は目が大きかった。それは美しさや可愛さの象徴となっており、幼少期に見ていたアニメの影響から特に目の整形を望む若者も少なくないだろう。

2章 韓国と美容整形

日本に美容整形が流行し始めた背景には、韓国からの影響が大きいと考えられる。そこで、この章では韓国の美容や韓国文化の日本への影響について考えていくことにする。

2.1 節 韓国の美容と儒教

韓国が美容大国と言われている背景には儒教の教えが根本にある。朱嘉は人間を大きく「聖人・君子・凡人・悪人」に分けて説明した。聖人とは最高の道德観を持ち人間能力が発揮され非常に完璧な人物のことを指しており、韓国では聖人＝成功者という考えが主流であり、成功者になる為にあらゆる能力を高める必要があるとされている。つまり、韓国人は「道德観＝能力」という考えが浸透している為、不道德な人は悪人、能力の低い人とみなすのである。格好の良くない人間は「人を不快にさせる能力の低い人間」「社会に受け入れられない人間」であり、それ自体を悪人だと考える。その為、韓国人は美男美女になることで聖人に近づけるという考え方で根付いているのである。韓国社会ではルックスによる社会的ステータスが世界的に見ても重要な位置を占めており、容姿が悪いと出世などに影響が出るという考えがあったりする。よって、聖人になる為に整形をすることに抵抗が少なく、それが見せかけの道德観であっても不格好は内面の不道德観が表に出たものとなる為、整形をして容姿が良くなることは徳を積むことに繋がると考える。しかし、孔子のことばの中に「身体髪膚これを父母に受く、敢えて毀傷せざるは孝の始めなり」と

ある。これは、人の身体は髪の毛一本まで両親から恵まれたものであるから、傷つけないようにするのが孝行の始めである [4]、という教えである。整形や容姿に手を加えることはこの教えに反しているようにも考えられる。

精神を重視する日本とは異なり、儒教の影響として韓国では形を重視する。外側の魅力高めようとすることは知識や技術を高める為に努力することと同じであると考えられ、実際の人気企業の就職条件には容姿端麗を行っている。体に傷をつけないのは、あくまで孝のはじめであり、これが儒教の教えのすべてではない。「身を立て、道をおこない、名を後世に挙げ、もって父母をあらわすは孝の終わりなり」、外見を改変して立派な会社に就職して実績を上げれば、親の喜びはこれに勝ものなく最高の孝行である。このような言葉もあるように、外見を美しく整えたり努力を行うことが大切という考えがある為、このような教えも韓国の外見の美意識の向上に影響を与えていると考えられる。

谷本奈穂氏（関西大学総合情報学部）[1]によると、日本人が生成する理由としては、同じアジアの韓国では儒教の影響で整形をする人が多いが、日本人が整形をする理由は何にあるのだろうか。主に理由として考えられるのは「綺麗になりたい」という思いや「悩み・コンプレックスを解消したい」「自分を好きになりたい・自信をつけたい」という思いから整形に至る人が多い。また、整形というものの自体が身近なものになってきていることも理由として挙げられるだろう。最初に述べた韓国では整形をしたことを表に出す人が多いが、日本人は整形を表に出す人が少ないことが韓国との大きな違いと言えるだろう。

2.2 節 韓国文化の日本進出

2020 年 4 月頃からコロナの影響でうち時間が増えたことにより、映像配信サービスの利用が増加した。「愛の不時着」や「梨泰院クラス」を始めとした韓国ドラマが話題となり、その他にも NiziU のデビュー、ドラマの影響で韓国グルメも再熱して“第 4 次韓流ブーム”が到来したと言われている。以下は韓国アイドルとジャニーズのファンクラブ会員数ランキング[出典]である。

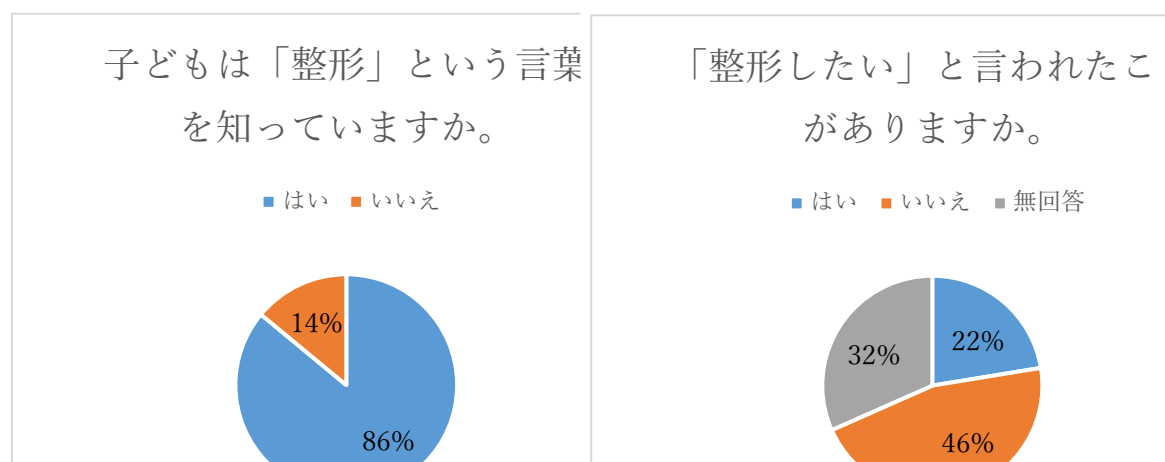
韓国アイドルのファンクラブ会員数ランキング	ジャニーズのファンクラブ会員数ランキング
1. BTS (250 万人)	1. 嵐 (308.3 万人)
2. BLACKPINK (193.7 万人)	2. SnowMan (124 万人)
3. TWICE (96.7 万人)	3. King&Prince (105.6 万人)
4. Stray Kids (90.7 万人)	4. SixTONES (80 万人)
5. ITZY (66 万人)	5. Hey!Say!JUMP(79.9 万人)
6. TOMORROW X TOGETHER(50.6 万人)	6. 関ジャニ∞ (79.6 万人)
7. ENHYPEN (46.2 万人)	7. なにわ男子 (77.2 万人)
8. SEVENTEEN (43.4 万人)	8. KinKi Kids(60.4 万人)
9. NewJeans (30.9 万人)	9. Kis-My-Ft2(59.3 万人)
10. LE SSERAFIM (20.8 万人)	10. Sexy Zone (53 万人)

韓国アイドルのファンクラブ会員数 1 位は BTS であった。日本の BTS ファンクラブの人数は 2018 年に約 30 万人、2019 年に約 45 万人、2020 年に約 50 万人、2021 年には約 70 万人とも言われている。日本のアイドルのファンクラブ数と比較しても分かるように韓国アイドルは日本に

のアイドル界において大きな影響をもたらす存在にここ数年で発展している状況であり、最近の整形ブームの要因の一つと考えることができるであろう。

3 章 実態調査から見える子と親の意識

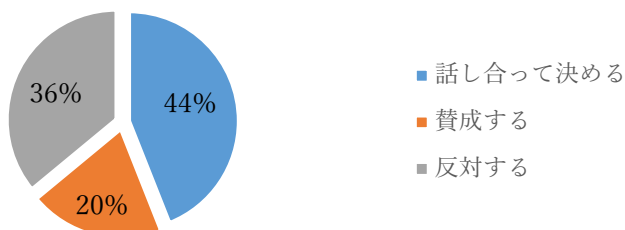
はじめに、インターネットでの検索[12]によると、10～19歳の娘・息子を持つママ世代にアンケート結果、「子どもが「整形」という言葉を知っていますか」という問いに「はい」の回答が86%、「子どもから整形したいと言われたことがありますか」という問いに「はい」の回答が22%であった。



「整形」という言葉はテレビ番組、CM やドラマで知ったという意見が多数であったが、『テレビを見ているときに、この人顔変わったよね、整形した?』などと親が話しているのを聞いたから』『友達と韓国アイドルの話をしていて、整形したらかわいくなれる』と聞いた』など親や友達、SNS から整形を知った場合もあった。また、「整形をしたい」と言われた場合においては「目をぱっちり二重にしたい」という声が多く、その他には鼻筋を高くしたい、エラボトックスをしたいなどが続いていた。

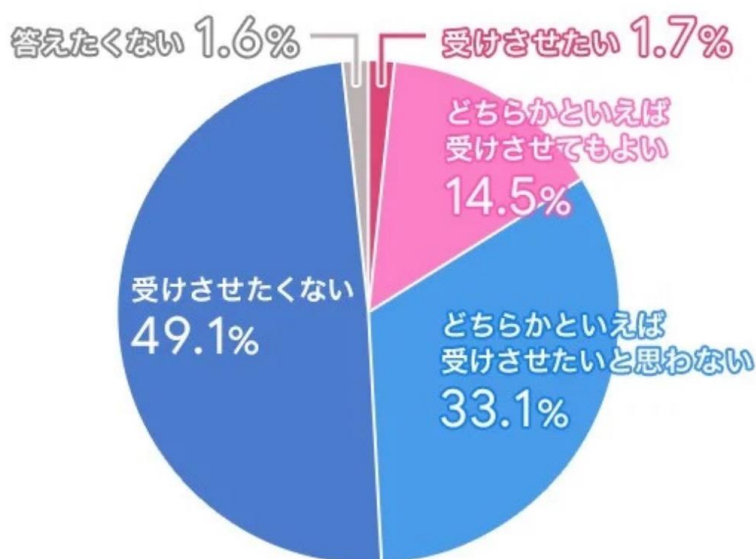
更に、子どもから「整形したい」と言われた時にどのように反応するかという問いに対しての回答は「話し合って決める」が44%、「賛成する」が20%、「反対する」が36%であった。

子どもから「整形したい」と言われたとき、どのように反応しますか？



尚、「賛成する」と答えた方からは、「子どもの意見を聞いたうえで必要であると考えれば賛成する」という声が多く、「反対する」という方からは、「きりがないことやリスクを伝える」等という声や費用などの面からも反対するという声があった。

次に、オリコン・モニターリサーチ[13]が18歳未満の子どもがいる20～50代のOMR会員919名に行った調査によると、「自分の子どもが未成年のうちに美容整形手術を受けること」をどう思うかという問いに対し、受けさせたくない・どちらかといえば受けさせたいと思わない」が全体の82.2%を占め、「受けさせたい・どちらかといえば受けさせてもよい」は16.2%に留まった。



n=18歳未満の子どものいる20～50代の男女919名

「受けさせたくない・どちらかといえば受けさせたいと思わない」と答えた755名の理由は、「子どもの容姿に問題を感じない」が一番多く55.2%。次いで、「まだ発達段階で何が起こるかわからない」が44.0%、「大人になってから受けても遅くはない」が34.4%、「子どもの体にメスを入れたくない」が34.2%、「まだ子ども自身が手術のことを十分理解して判断できる年齢ではない」が33.8%となった。批判の声として、「大人になると顔も変わるので、未成年のうちは早いと感じる。一度やると癖になり繰り返してしまいそう」や「容姿のせいでよほど苦しい思いを

するのならば仕方ないが、そうでないのであれば生まれもった容姿のまま生きていってほしい」、「子どもが一重だから二重手術を受けさせるなど親のエゴでしかない。子どもは親の所有物ではない」などの意見が上がっている。



一方、「受けさせたい・どちらかといえば受けさせてもよい」と答えた149名が選択した理由で一番多かったのが、「今は美容整形に抵抗が少ない(気軽に受けられる)」というもので43.0%。続いて、「子ども自身が容姿に悩んでいる」が25.5%、「親である自分が、自分の容姿コンプレックスで苦労した」が23.5%。また、「どの年代からなら受けてもよいと思うか?」の問いには、未成年のうちでは「高校生から」が28.2%と一番多く、「中学生から」は10.1%、「小学生から」は8.1%にとどまった。肯定の声として、「容姿の悩みが深刻で、ら、悩みを解決してあげたい。私自身が自分の容姿大嫌いだから」、「韓国などは気軽に受けている。一生コンプレックスを感じて生きるなら後悔ないようにしてほしい」などの意見が上がっている。

他方、「受けさせたい・どちらかといえば受けさせてもよい」という人の理由の中には、子ども自身の容姿への悩みだけでなく、「親である自分が、自分の容姿コンプレックスで苦労した」という回答があった。実際、全回答者に「これまで自身の容姿に悩んだ経験があるか」を聞くと、68.8%が「ある」と答えている(「ない/どちらでもない/答えたくない」が31.2%)。「自身の容姿に悩んだ経験がある」と回答した人では、「受けさせたい・どちらかといえば受けさせてもよい」という人が19.0%。「自身の容姿に悩んだ経験がない/どちらでもない/答えたくない」人では「受けさせたい・どちらかといえば受けさせてもよい」という人は10.1%。8.9ポイントの差があった。若干ではあるが、親自身が容姿に悩んだ経験があるほうが、自分の子どもへの美容整形をポジティブに考える傾向があるようだ。

尚、「未成年のうちに美容整形手術を受ける場合、どの手術なら受けてよいと思うか」という問いに対し、「アザやホクロの除去」が約半数の46.5%、「ワキ汗・ワキガ改善」が36.7%、「二重まぶた形成」が23.7%に。逆に、「目を大きくする」は5.5%、「鼻や輪郭の形成」は2.3%に。顔

の造形を変えるような手術を挙げる人は少数だった。

まとめ

これまで述べてきたように保護者の中には、整形に対して反対の意見や賛成しがたい部分が多く見られることが分かった。子どもは親の所有物ではなく、整形することは個々の自由であると考えられる。様々な文化が若者によって創作される時代であり、整形に対するイメージも大きく変わることが予想されるが、現状では子どもの整形について少なからずリスクが伴うことやありのままの美しさを持った容姿に手を加えてほしくないという保護者の整形に対する抵抗感を見無視することはできない時代であるように感じられる。しかし、子どもの意見を尊重し、子どもの心情や気持ちに寄り添うことが最も重要であり、子どもが整形したいと思う背景には様々な心理状況や子どものまわりの環境などの要因などが関与していることを忘れてはいけない。単純に反対であるという意見を押し付けるのではなく、話し合いなどの子どもが意見や考えを伝えられる機会を作り、子どもの気持ちに耳を傾け理解しようと寄り添うことが重要ではないだろうか。

参考文献

[1] Reed 「KANSAI UNIVERSITY NEWS LETTER 研究最前線 No55」

https://www.kansai-u.ac.jp/reed_rfl/archive/55_1.php

(2023 年 10 月 31 日確認)

[2] PR TIMES 「【ぶっちゃけ美容整形ってどうなの！？】株式会社アチーブ」

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000004.000042981.html>

(2023 年 10 月 31 日確認)

[3] かげひと絵のブログ「年代ごとの「絵柄の移り変わり」について」

<https://kagehito-e-blog.com/1378/>

(2023 年 10 月 31 日確認)

[4] kincho1560jikan のブログ「美容整形と儒教の教え」

<https://ameblo.jp/kincho1560jikan/entry-12599255568.html>

(2023 年 10 月 31 日確認)

[5] PR TIMES 「【未成年 122 名へ「美容整形事情」を調査】東京イセアクリニック」

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000021.000026711.html>

(2023 年 11 月 13 日確認)

[6] TOKYO MX 「Z 世代が「美容整形」に駆け込む理由とは？」

<https://s.mxtv.jp/tokyomxplus/mx/article/202108230650/>

(2023 年 11 月 13 日確認)

[7] 社会実情データ「美容整形市場の国別ランキング (2011 年)」

<https://honkawa2.sakura.ne.jp/2485.html>

(2023 年 11 月 13 日確認)

[8] 日本経済新聞「日本は世界 3 位の「整形」大国？ 部位は顔に集中」

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZ034722620Z20C18A8EAC000/>

(2023 年 11 月 13 日確認)

[9] BBC NEWS JAPAN「美容整形手術、新型ウイルス流行で増加 日米や韓国」

<https://www.bbc.com/japanese/53359206>

(2023 年 11 月 13 日確認)

[10] 東洋経済 ONLINE「2 階の飲食店が「美容整形」に様変わりする理由」

<https://toyokeizai.net/articles/-/412809>

(2023 年 11 月 13 日確認)

[11] アキバ総研「2010 年代の名作アニメ」

https://akiba-souken.com/vote/v_258/

(2023 年 12 月 11 日確認)

[12] STORY「思春期の我が子に「整形したい」と言われたらどうする？」

<https://storyweb.jp/lifestyle/268416/>

(2024 年 1 月 16 日確認)

[13] eltha「子どもの美容整形、8 割以上の親が「受けさせたくない」

<https://beauty.oricon.co.jp/special/101606/>

(2024 年 1 月 16 日確認)

子どもを縛る環境改善

長 威央莉 花田 歌音 馬場 妃花 石井 達徳 作本 善空

中村学園大学短期大学部幼児保育学科

概要

今現在、学校生活を送っている子ども達に対して多くの縛りがあることが目立っており、そこには必要ないものや過剰に反応しすぎているものがあることも事実である。その結果、子どもたちの生活する環境で課題とされている「ジェンダー」や「ランドセル」といったものに加え、学校で定められる「学則」が大人の都合によって子どもたちの人権を侵害している可能性も否定できない状況である。そこで、本研究では女性の美意識事情、中学、高校の校則問題、小学校の学則問題に着目し、子ども大人それぞれにとってストレスフリーな生活を送る為には何が必要であるかについて考えていく

1 章 女性の美意識

多くの女性が美に関心を持ち常に美について考えている。そこで、この章では女性の美についての歴史を考えると共に、女子高校生のメイク事情について考察していく。

1.1 節 女性の美歴史

明治初期まで続いた女性の習慣で歯を黒く染める「お歯黒」は黒い鉄の液体を使って歯を染めるもので、歴史はとても古く、奈良時代に朝鮮半島から伝わったとされている。お歯黒をつけることには色々な意味があり、平安時代には貴族の上流階級の間に広がり男女ともに行われていた。江戸時代には既婚した女性のシンボルとされていたが、明治時代に帯刀や丁まげの廃止と共にお歯黒も衰退していった。

白粉は主に顔へ塗布する化粧品の総称であり、化粧くずれの防止や簡単な化粧直しにも用いられている。元々白粉はその名のとおり肌を白く見せるもので、江戸時代に広く一般に普及した。当時はデンプン、貝殻、粘土、鉛白、甘汞等、様々な原料が用いられたが、このうち鉛白粉はのびや、つきがよく、比較的安価であったため広く使用されていたが、鉛白粉による鉛中毒の問題は深刻となり、明治時代には無鉛白粉が出回りはじめると共に 1900（明治 33）年には鉛白粉が使用禁止となった。また、大正時代には肌色や肉色に着色した有色白粉が市販されはじめ、以後、白粉を使った化粧法は大きく変化することとなった。現在、粉白粉のおもな成分はタルク、マイカ、セリサイト、カオリン、二酸化ケイ素（シリカ）あるいはこれらを表面処理したもので、これに白色顔料や着色顔料の酸化チタン、酸化亜鉛、酸化鉄などが添加されている。

平安時代の貴族の女性たちの髪型である「垂髪」は読んで字のごとく「髪をそのまま長く垂らした」スタイルである。平安絵巻に描かれる女性が着ている十二単の裾より長い髪型をしているように平安時代においては髪が長いことが美人のひとつの条件であった。他にも顔の色の白さや切れ長の目、おちょぼ口、ふっくらした顔などが美人の条件であった。白い顔が美人の条件となった理由の一つに暮らしの光環境が上げられる。当時平安貴族の住んでいた寝殿造りでは昼でもうす暗い室内だった為、白粉を塗って暗い中でも肌が美しく見えるようにしたとも言われている。また、大陸からの影響で白い肌は美人の条件という認識も広く浸透していた。

このように、古来より化粧や髪形、服装等は「美」の象徴として考えられており、美に関する意識は女性の DNA に組み込まれているといっても過言ではないであろう。

1.2 節 女子高校生のメイク事情

女子高生のメイク事情について、PR TIMES[1]によると「メイクをしていますか？」という質問に対して 57.4%の女子高生が「している」と回答しており、半数以上の女子高生がメイクを楽しんでいる状況である。内容としてもファンデーションを塗ってのばっちりメイクや目をはっきり見せるマスカラやつけまつ毛などのポイントメイクを楽しんだり、自然な色付きのリップを楽しんだり、女子高生の取り巻く環境によってメイクの取り入れ方も様々なようである。また、女子高生の中でも一番メイク歴が長い高校3年生に「いつからメイクをするようになりましたか？」という質問をしたところ「小学校の高学年から」が 1.9%、「中学生から」が 26.1%であり、中学生からメイクを始めたケースも少なくはないが、「高校1年生から」が 30.8%、「高校2年生から」が 36.4%、「高校3年生から」が 3.7%であり、7割以上の女子高生が高校生になってからメイクを始めたというのが現状である。

2 章 校則問題

この章ではこれまで私たちが経験してきた中で疑問に感じていた校則や部活動による学校独自のルールについて、多くの校則の中でハラスメントに該当するものや時代の流れによって強制されてきたもの等、子どもの人権と尊厳を脅かしている実態について考察していく。

2.1 節 時代錯誤の校則

中学生や高校生は生徒手帳を携帯しており、その中に校則として守らなければならない事項や禁止事項が事細かに決められている。最近では大学生が持つ学生証のようなカードに変化している場合もあり、校則を生徒や第3者が容易に確認できない状況となっている。校則についてはこれまでも様々な議論が成されているが、子ども達を縛る校則[6]として以下について考えていく。

頭髪

「ツブブロックやポニーテールなど、特定の髪型の禁止」

「男子は耳にかかったら切る、女子は肩にかかったら結ぶなどの長さに関する規定」

「染色やパーマなど加工の禁止」

この校則の理由として、学生らしい髪型をする為や清潔感を出す為という意見がある。しかし、そもそも学生らしさとは何なのかと疑問を持たざるを得ない。ジェンダーを含めた個性の抑制を大人の感覚で行うことは時代錯誤ではないだろうか。また、ツープロックやポニーテールが例として挙げられているが、この二つは十分に清潔感のある髪型である。長さの規定に関しても、髪型によっては規定の長さ以上であっても清潔感を出すことは可能であり、中学生や高校生であれば自身の髪型が清潔か否かを判断する能力を持っている前提で考えるべきである。

制服

「カーディガンやセーターの禁止」

「肌着の色の指定」

登下校時の気温に合わせてカーディガンやセーターを着用することは賢いことであり、清潔な色として白が指定されることが多いが、白は透けやすく、男子間でも肌着が透けている友達に対していじる場面がある等、多感な時期の中高生には悪影響となるのではないだろうか。また、肌着といったプライバシーに関わることを学則の名のもとに強制することは問題であり、その確認を学校が行うことはセクシャルハラスメントになる可能性が非常に高いことも忘れてはならないことである。

その他

「眉毛の手入れの禁止」

眉毛を手入れせずに放っておくと髪型にあったような清潔感がなくなってしまうのではないだろうか。眉毛を全て剃るということは違うと考えられるが、眉毛の長さを調節したり、整えたりすることは清潔感を出すことや身だしなみとして必要なことではないだろうか。

小学校の変った校則

小学生がおかしいと感じている校則として髪型や文房具がある。髪色については地毛証明を求める場合があり、文房具については多くの学校では使用に「シャーペンの禁止やボールペンの禁止」等の制限がある。小学校がシャーペンを禁止する理由として低学年は筆圧が安定せずシャーペンを使ってしまうと芯が頻繁に折れたり、授業中にペンの分解をしてしまう為に学力向上を妨げる恐れがあることや高価な物がある為盗難される可能性もあると考えられている。高学年は使用しても良いのではないという意見もあるが、コンセントの穴に芯を入れる危険性や低学年同様ペンの分解などをしてしまう可能性がある為、高学年での使用も禁止されている小学校が多いのが現状である。鉛筆でもコンセントの穴に入れてみたり、盗難の恐れがあることに変わりはないが、学校側はシャープペンを使用して生まれるデメリットが多いため使用を禁止しているのが実態である。

上記はあくまで一部であるが、大人になってからは自由にできることである。すなわち、「子どもだからまだ早い」「不良を助長する」といった大人の偏見が時代錯誤の校則を生み出していると考えられる。確かに、30年以上前では学校崩壊という言葉が用いられるような状況があった。その当時ではこれらの校則も必要に応じて制定されたことであり、これらの校則が誕生したことを否定することはしない。しかし、様々な規則の制定には温故知新の考え方が基本であるべきであり、それが教え育てる教育者の役目ではないだろうか。

2.2 節 子どもの人権と尊厳

校則という形で明文化されている訳ではないが、風習・習慣として子ども達の人権や尊厳に制約を与えるものが学校教育には存在している。それは指定された制服や部活動における坊主、体操服やユニホームなどである。

はじめに、坊主頭として思い浮かぶのは高校野球である。校則に掲載されている訳でもないのに高校野球を行っている球児達は皆が坊主頭にしている。そもそも野球部は坊主頭にすべきだという風習は 1941 年から 1945 年まで続いた太平洋戦争にあるとされている。当時の早稲田大学の監督、飛田穂州氏が野球を守るために学生野球に軍人の育成というものを取り入れた。その軍規の中に坊主にするというものがあり、これが現代まで浸透しているようである。そういった背景がある中で、今現在の高校球児が坊主にしている理由を調べてみると、帽子をかぶって行うスポーツの為に衛生面を配慮する、また、坊主にすることで精神を勝利に総動員する為というものもある。いわゆる精神論であるが、そんなことで勝てるのなら誰も苦勞はしない。そういった理由がある中で、2023 年の全国高等学校野球選手権大会では非坊主の慶応高校が優勝した。それだけではなくベスト 8 の内、3 校が非坊主であった。これを機に坊主を強制している風習が終焉を迎えることを切に希望するばかりである。

次に、肌露出の多い体操服について、思春期や多感な時期の女子児童・生徒には足を出したくないと考える女性は多く存在している。しかし、学校の決まりや部活のユニフォームという理由で肌の露出が多い体操服やユニフォームを着て運動することを強制されている。教育現場で発生するハラスメント[10]として、セクシャルハラスメント・アカデミックハラスメント・パワーハラスメントがよく知られているが、この中でアカデミックハラスメント・パワーハラスメントはハラスメントを受けた側がハラスメントと感じたからといって直ちにハラスメントとなる訳ではなく第三者による客観的に行き過ぎた行為と判断されてハラスメントが成立するのに対して、セクシャルハラスメントはハラスメントを受けた側がハラスメントと感じた時点でハラスメントが成立するものである。すなわち、動きやすさを理由に嫌だと感じている女性の気持ちを無視して肌露出の多い体操服を指定していること自体がセクシャルハラスメントであり、教育現場による性暴力に苦しむ女子児童・生徒の救済を切に望むばかりである。

3 章 小学生を縛る教育現場

この章では学童期の子どもを取り巻く学習環境について考察すると共に、子どもの最善の利益を考慮して、お菓子の必要性やランドセルの活用、小学生のメイクについて考えていく。

3.1 節 子どもとお菓子

現代の日本では数万種類もあると言われているお菓子は、数々の歴史的な発展から和菓子、洋菓子に、生菓子、干菓子等、様々な分類がある。お菓子の大半が「子どもの喜ぶもの、食べるもの」といった印象を持たれがちである。確かに、お菓子は他の食品と比べてリーズナブルであるため入手しやすく保存も効きやすく、子どもにちょっとした間食として利用するには適したもの

と言えるものである。

大正時代に作られ、現在では大阪の道頓堀に特徴的なデザインの看板が飾られるほど広く知られたものとなっている菓子メーカーの「グリコ」の創業者である江崎利一氏は「国民の体位向上に貢献したい。そのため子どもたちが喜んで食べてくれるものがいい」という思いから、エネルギー代謝に必要な栄養素「グリコーゲン」を含む栄養菓子グリコを誕生させたのである。[3] すなわち、今私たちが抱く印象の背景には江崎氏の思想が広まり、私たちの印象に広く浸透しているからと考えることも出来るのである。

日刊工業新聞[4]によると現在の3～9歳までの子どもを対象にお菓子を毎日食べているという割合は64.5%であり、米国や中国よりも多くなっている。さらに、週に一回以上お菓子を食べる割合は98.5%であり、ほぼすべての子ども達が日常的にお菓子を食べている現状である。日本の保育所や幼稚園、認定こども園ではおやつ時間が設けられ、通園している子どもたちは毎日お菓子を食べている。また、待機児童の子どもたちであっても、食べる機会がないということは割合を見ても考えにくい。一方で、義務教育である小学校や中学校では時間割には昼食の時間はあっても、おやつ時間は無く、学校でお菓子を食べている姿も見ることがない。その理由は、学則に持ち込み禁止と定められているから（府中市立国府小学校学則[5]）である。

高校からは間食としてお菓子を食することが認可されている状況ではあるが、子どもの為に作られているお菓子が小学校や中学校で禁止されていることは日本のお菓子の歴史観に矛盾しているのではないだろうか。

3.2 節 小学校のランドセル

ランドセルは初等教育を学ぶ児童の象徴ともいえる代物であるが、ランドセルの歴史は江戸時代にまで遡る。ランドセルの起源とも呼べる鞆は幕末に輸入され、軍隊で活用されるようになったのが布製の背囊（はいのう）であり、そこから箱型で背負式のランドセルは日本独自のものが明治20年に作成されたのが最初だとされている。明治当時の学習院では当初から制服は採用されてはいたが、通学形態が馬車で通ったり、使用人に荷物を預けたりと様々であった。しかし、学習院はこの状況を是とせず、「学校では皆平等、家庭環境を教育の場に持ち込むことはいけない」との理念のもと、「学用品は自分の手で持ってくるべき」との考えから、明治18年に子どもたちは馬車や人力車で通学することや使用人に荷物を預けることを禁止した。その際に採用されたのが、背中に添えて両手を空けることができ、持ち運びの理念性が良かった軍隊用の背囊であった。この背囊がオランダ語では「ランセル」と呼ばれていた為、それが語源となり「ランドセル」という言葉が生まれたのである。[7]

現在のランドセルは「背負うことによって、子どもの負担が軽減できる」、「両手が自由に使える」等の長所に加え「転倒時のクッションとなる」ということを売りにしている。しかし、メリットもあればデメリットもあり、購入価格平均相場は約5.5万円という実態からも分かるように「価格が高い」ということである。サイズの近いランドセルとリュックの値段の比較ではランドセルはリュックの約20倍、重量では約6倍近い数値となっている。現在ではランドセルが家計の負担になっている家庭も存在しており、昔から祖父母が孫にランドセルを贈るという習慣があるが、核家族化が問題視される昨今、子どもの要求を叶えるために負担を抱える家庭が出てきてい

るのも現状である。また、ランドセルのみで1kgを超えているものも多い中、小学校1年生の段階で国語や算数、生活といった科目の教科書に加え、ノートやドリル、筆記用具を加わることで5キロほどの重量を背負うことになる。7歳児の平均体重は男児で平均23.5kg、女児で平均22.9kgであり[9]、体重の約1/4の重量を背中に背負うことになる。当然そのような重さを背負うことで重心は後ろに傾いてしまい、更には、その重量を支える肩にも負荷がかかってしまう。その為、筋肉痛や肩こり、腰痛という身体的症状を引き起こしたり、中には通学路が長い子どもに至っては、重みによる負荷に苦痛を感じ、憂鬱になるといった精神的症状を引き起こしたりといった原因ともなっている。[8]

これらをまとめると、小学生のシンボルたるランドセルは一般的なりュックサックに比べ、重量や値段が数倍以上であり、現代社会の家族傾向から見れば経済的負担となる家庭は少なくないということと、昔からの習慣が根付いている代物であるということ、安全性の為のランドセルが危険を誘発する可能性があることである。子どもの最善の利益を考えるならば「ランドセルやリュックの採用を議論する前に、収納する重量をまず軽くすべき」と声を大にして言いたい。すなわち、外見的解決よりも根本的解決に向けて議論していくことが必要である。

現在高等教育ではクォーター制度の導入が検討されている。初等教育では現在の3学期制のメリットも多くの人に認知されていることであり、高等教育のクォーター制度をそのまま初等教育に導入することには賛否があることであろう。しかし、発達段階の子どもに1日で多くの教科目を教えることは効果的な学習に繋がると言えるのであろうか。一方で年間の総学習時間を保ったままで1日に学ぶ教科目数を減らすことで子どもの学力が低下するのであろうか。教育行政を含め、大人の社会には現状からの大幅な変更を望まない保守的な考え方が存在している。このような保守的な考えが子どもを縛る教育現場を継続させ続けている大きな要因であることを社会は自覚する必要があると考える。

3.3 節 小学生からのメイク

MAMARINA[2]によると、子どもがメイクをする際の問題点として、かぶれや炎症を起こすことやビューラーを使用したことによる金属アレルギーを起こすこと、また、つけまつげやまつげパーマの接着剤や化学薬品による目の周りの炎症を起こすことが懸念されている。その他にも肌荒れの可能性、肌の老化、ネイルで爪が弱る、子どもらしさがなくなるなどが挙げられている。

これらのことは多くの大人が思うことであると考えられるが、大人では肌が荒れたり自分の肌に合わない化粧品等を使用した場合、自分に合うものを探したり、違うものを使うことが普通である。これは子どもにも同じことが言えるのではないだろうか。それ以上に、アトピーやあざ等の肌にコンプレックスを感じている子どもにとっては、化粧は子どもの肌を守ったり、自分の持っているコンプレックスを隠したりすることもできるものである。子どもの肌は大人と比べて元々美しいものであるがゆえに大人からするとちょっとした見た目の問題であったとしてもそれが強いコンプレックスにより引きこもりやいじめに繋がることもある。したがって、常識的な範囲で子どもの化粧を認めることで苦悩を感じる子どもの救いとなることやいじめ改善に繋がるのではないだろうか。

まとめ

これまで述べてきたように、大人は「子どものため」というもっともらしい建前を作り、子ども達の持つべき権利を奪い縛っている。すなわち、子ども達を取り巻く環境で不都合を生み出しているのは子ども自身ではなく大人たちである。こういった制約があることによって行われるいじめや不良行為があるということを今一度社会全体として考える必要があるのではないだろうか。女性の美意識は女性の DNA に組み込まれているものであり、お菓子も歴史を辿れば本人の為だったり、子どもの為を目的として誕生している。その意味合いが薄れてしまっているのが現状の課題であり、過去先人たちが築き上げたものに縛られるだけでなく、子ども達を神格化してしまわずに一人のヒトとして平等に接していくべきである。したがって、子ども達が真に自由と多様性の中で社会と向き合える環境で過ごせる時が来ることを強く願う限りである。

参考文献

[1] PR TIMES 「【LINE リサーチ】高校 1、2 年生でメイクを始めた人が約 7 割、早い人では小学校高学年や中学時代も約 3 割 メイクの参考は「YouTuber」が最も人気、「Instagramer」「友人」も多数」

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000002243.000001594.html>

(2023 年 10 月 18 日確認)

[2] MAMARINA 「小学生のメイクはあり？親が感じるメリット・デメリット」

<https://mamarina.jp/problem/elementary-school-student-make-up.html>

(2023 年 10 月 18 日確認)

[3] グリコ 「商品の歴史」

<https://www.glico.com/jp/company/about/history/product/>

(2023 年 10 月 27 日確認)

[4] 日刊工業新聞 「クラシエ 子どもとお菓子のアンケート Vol.9」

<https://www.nikkan.co.jp/releases/view/87198>

(2023 年 10 月 27 日確認)

[5] 府中市立国府小学校 学則

http://www.edu.city.fuchu.hiroshima.jp/~kokufu-shou/rules_kousoku.html

(2023 年 10 月 27 日確認)

[6] メガホン 「問題校則 (ブラック校則)、なぜなくなる？ 廃止・見直しのポイント」

<https://megaphone.school-voice-pj.org/2022/10/post-1943/>

(2023 年 11 月 15 日確認)

[7] 日本靴協会ランドセル工業会 「ランドセルくらぶ：ランドセルの歴史」

<https://www.randoseru.gr.jp/history/rekishi.html>

(2023 年 11 月 29 日確認)

[8] ランドセル博士 「ランドセル症候群について詳しく解説！結局ランドセルは悪いものなの？」

<https://randoseru.kochinews.co.jp/syndrome/>

(2023 年 11 月 29 日確認)

[9] スクスクのつぼ君「子どもの平均体重」

https://www.suku-noppo.jp/data/average_weight_girl.html

(2023 年 11 月 29 日確認)

[10] 人事院「セクシャル・ハラスメント」

https://www.suku-noppo.jp/data/average_weight_girl.html

(2023 年 12 月 6 日確認)

カエル化

井上 彩綺 仲村 芽衣 平川 史翔 藤田 紀乃

中村学園大学短期大学部幼児保育学科

概要

最近、若者の間でカエル化が話題となっており、若者の恋愛観の変化が社会問題となりつつある。そこで、本研究ではカエル化の実態について考察すると共に、アンケート調査からその原因について考えていくことにする。

1章 カエル化現象

この章では最近話題のカエル化現象について紹介すると共に、カエル化現象経験者へ行ったインタビューの内容を踏まえてカエル化現象について考察していく。

1.1 節 カエル化現象

カエル化現象[2]とは、好意を持つ相手が自分に対して好意を持っていると分かるとそれがきっかけとなってその相手に嫌悪感を抱いてしまう現象のことであり、2020 年程から世間で話題となっている。なぜ「カエル」なのかについては、お姫様の前に現れたカエルが王子様に変身するグリム童話の「蛙の王様」を挙げ、逆に王子様がカエルに変身するようなこれらの事例について「蛙化」と命名したとしている。この考え方でポイントとなるのは「好きだった相手が自分のことを好きになる」という点で、相手の言動の良し悪しは直接関係ない。しかし、いわゆる Z 世代の多くは「好きな相手のちょっとした言動に冷めてしまう」という意味で使う例が殆どである。すなわち、以前は「両思いになると冷める」という意味で使っていたが、最近は『相手のささいな言動で冷める』という意味で使われることが多いようである。

Table 1
蛙化現象の生起要因の分類

ユニット	カテゴリー	具体的な内容
相手への嫌悪	性交嫌悪	「性的な対象として見られているかもしれない」と意識してしまい、相手に対して嫌悪感を覚えた。
	その他嫌悪	気になっている人と仲良くなったら相手からアプローチしてくるようになり、なんだか気持ち悪かった。
理想との差異	虚像崩壊	その人の好きじゃないところが見えるようになった。
	恋愛希求	恋に恋していたから。
	接近速度への違和感	心理的な距離が自分の意図しない形で急接近してしまって、戸惑いを感じた。
	好意の無さへの気づき	実は好きではなかったと気が付いた。
恋人不要	自由喪失	自分の時間が欲しいと感じるから。
	獲得成功	追いかけているうちが楽しく、いざ手に入ったら興味がなくなった。
	見た目の好み	見た目が気になっていただけだった。
自信欠如	自信欠如	自己肯定感が低く、好きになってくれる要素が分からず冷めてしまった。
理由不明	理由不明	分からない。

カエル化現象が起こる要因[3]

1.2 節 カエル化経験者へのインタビュー

カエル化現象に陥ったことがある 19 歳と 20 歳の女性 4 人に最初の恋人との別れ方や以前の恋愛についてインタビューを行った。

一人目は、最初の恋人との別れ方は自然消滅で 4 か月ほどでお別れをした。尚、最初の恋人にはカエル化現象は起きなかった。しかし、次の恋人とは一年半ほど付き合っていたが、遠距離でお別れをし、その恋人にはカエル化現象が起きてしまった。

二人目は、最初の恋人と 5 か月ほど付き合っていたが、相手が優しすぎて申し訳ないと感じ、お別れをした。その人にはカエル化現象は起きなかった。しかし、次の好きな人には相手が草食系男子であり、男らしくアプローチをしてほしかったとカエル化現象が起きた。

三人目は、最初の恋人とは 1 か月ほど付き合い、歳が二十歳離れていたこともあり、親に反対されお別れをした。しかし、次の恋人とは、相手が転ぶ姿を見たり、客観的に相手を見た際にカエル化現象が起きた。

四人目は、最初の恋人には蛙化現象は起きず自然消滅した。大学 1 年生の半ばに 2 つ年上の方と付き合ったが、付き合う前と後のイメージが異なったことからカエル化現象が起きた。

このインタビューを通して共通するものとしては、初めて付き合った人にはカエル化現象は発生しなかったということである。また、通常の破局では喧嘩別れが大半と考えられるが、カエル化を発症している人の最初の恋愛は自然消滅や好きな気持ちが残った状態、周囲に引き裂かれる悲劇のヒロインのような恋愛の最期を迎えているように感じられた。そこで、ひとつの仮説として初めてお付き合いをした相手にカエル化現象の原因があると考えられる。すなわち、初めの恋

愛の最後が相手を嫌いになるような辛い思い出が無かった場合、次の恋愛に同じような自分が傷つかない恋愛を求めてしまう保守的な思想がカエル化現象に繋がるのではないだろうか。

2 章 カエル化現象への影響分析

カエル化現象での背景として現実とのギャップが関係していることが考えられる。そこで、この章ではアニメやアイドルとカエル化の関係について調査した上で考察することにする。

2.1 節 アニメの影響とカエル化

恋愛を経験するまでの小学生や中学生の時期に出会うアニメの影響は 10 代の多感な時期の恋愛観に大きく影響することが考えられる。以下の表 1 は 2010 年から 2023 年までに放送されたおすすめアニメのランキング（あにこれ[1]）の内、上位 10 作品に占める美男美女系（足が細くスタイルの良いキャラクターばかりが描かれているアニメ）の作品数である。

2010 年 3 件	<u>2015 年 6 件</u>	2020 年 2 件
2011 年 1 件	<u>2016 年 4 件</u>	2021 年 2 件
<u>2012 年 4 件</u>	2017 年 2 件	2022 年 2 件
<u>2013 年 6 件</u>	<u>2018 年 4 件</u>	2023 年 2 件
2014 年 1 件	2019 年 2 件	

表 1 : 上位 10 作品に占める美男美女系の作品数

表から分かるように 2012 年から 2016 年にかけて美男美女系のアニメが上位にランクインしていること、影響を受ける年齢を 10 歳～15 歳と考えると、10 代後半から 20 代前半（2023 年現在）の世代に発生しているカエル化の一因として美男美女系のアニメが影響している可能性が伺える。すなわち、美男美女系のアニメを見た若者達は恋愛に対して八頭身という先入観があり、アニメの影響で理想が高くなっていく傾向にあることがカエル化の原因と考えることができる。

2.2 節 アイドルの影響とカエル化

日本のアイドルは「かわいい」「愛らしい」という言葉がピッタリであるのに対して、韓国アイドルは「美人」「ハンサム」「長身」という全ての基本条件が揃っていて「アイドル」と言える。また、日本のアイドルはそれぞれに個性があり、八重歯があつたりぽっちゃり体形だったり、背が低かったり、何か個性がある方が目立って売れるという傾向があるが、韓国では長身、美人、歯並びは完璧、スタイル抜群であることが求められている。言ってみれば、韓国アイドルは個性が無いとも言えるのであるが、若い女性にとっては、「憧れの存在」を見つけたことで人気に拍車をかけているのであり、韓国の若い女性が整形や容姿に非常に敏感であることも韓国アイドルの影響と考えられる。

3 章 カエル化現象の実態調査

カエル化現象の実態調査の為に本学幼児保育学科の学生対象にアンケート調査を行った。アンケートは幼児保育学科に在籍する 1 年生および 2 年生（令和 5 年度）387 名に対して行い、151 名（39.0%）から回答があった。尚、回答者の内、10 名（6.6%）が男子学生、141 名（93.4%）が女子学生であった。

はじめに、「あなたはカエル化したことがありますか。」の問いに対して、「はい」が 36%、「いいえ」が 64%であり、約 1/3 がカエル化の経験があることが分かった。次に、「最初にお付き合いした人との別れ方を教えてください。」の問いに対してはカエル化をしたことが「ない」および「ある」と答えたそれぞれにおいて、「自然消滅」の回答に大きな違いがみられた。

カエル化をしたことが「ない」

ケンカ別れ	浮気・二股をした・された	自然消滅	引き離された	遠距離恋愛となった為	分かれたことがない	お付き合いしたことがない	その他
7.2%	4.1%	20.6%	3.1%	10.3%	3.1%	25.8%	25.8%

カエル化をしたことが「ある」

ケンカ別れ	浮気・二股をした・された	自然消滅	引き離された	遠距離恋愛となった為	分かれたことがない	お付き合いしたことがない	その他
13.0%	5.6%	38.9%	1.9%	9.3%	1.9%	1.9%	27.8%

その他の理由

カエル化をしたことが「ない」	カエル化をしたことが「ある」
付き合いが長くて慣れてドキドキしなくなって冷めた 好きじゃなくなった 受験のため 相手の受験のため お互い同意の上で 好きじゃなくなったから 相手が重かったから 考え方が合わなくなった 好きじゃなくなったと言われた。 振られた 女がらみ 高校が離れたことやコロナが流行して会えなかったから。 好きじゃなくなった 円満に別れました。 考え方とかが違いすぎたり、あわなかった。 話し合い	好きじゃなくなった。 幸せに出来ないと言われた。 価値観の違い 飽きた 好きじゃなくなった 多分高校が違うことになるのと、普通に合わなかったんだと思う とても好きだったのになぜか別れてしまった。 すごく優しくていい人だったけど、好きか分からなくなったから、別れを切り出した。 気持ち悪くなった 好意を素直に受け入れられなくなったため別れたいと伝えた。 合わないところがいっぱいあったから 忙しかった 相手が重すぎて別れました。 お互いの気持ちが冷めた 相手がほかの女の子を好きになった。

カップルの自然消滅とは、「別れよう」「別れたい」などの別れの言葉が無い状態で、正式な別れ話をしないまま自然に別れる、別れた状態になることを指しており、別れるというよりは文字

通り二人の関係が“自然に消滅する”のが特徴である。

まとめ

一般的にカップルが分かれる場合はお互い話し合っではっきりとした意思表示の下で別れることが多いが、自然消滅の場合ではお互い好きな気持ちのまま別れている為、曖昧な別れ方になる場合が多い。付き合い初めは彼氏と彼女の関係になった瞬間からそれまでの空気が変わってしまうこともあり、「合わないのかな」「思った感じと違った」と思えば何となく放置して自然消滅してしまうことがある。その感覚を持ったまま別れ、その感覚を持ったまま次の恋愛をする為、付き合う前に急に付き合うことを恐れることがカエル化の要因と考えることができるであろう。

アンケートにおいて好きなアニメやアイドル等についても回答してもらったが、カエル化をしたことない人ある人とでは殆ど違いは見られず、アニメや漫画、アイドル等を含めた有名人等はカエル化に影響しないことが分かった。但し、カエル化に影響はしないと考えられたが、アイドルは若者たちに対して大きな影響を与えている。彼らの活動やパフォーマンスは若者たちに夢や希望を与え励ましを与える。また、アイドルのファッションやメイクなどのスタイルは若者たちのファッションや美容のトレンドにも影響を与えている。さらに、アイドルの歌やダンスは若者たちの音楽やエンターテインメントの好みにも影響を与えている。すなわち、アイドルは若者たちにとってのロールモデルとなり、彼らの生活や考え方にも影響を与えている。また、同じようにアニメでは、理想的な恋愛やロマンチックな展開を描くことがある。これにより読者は恋愛に対して理想を持つ。しかし、現実の恋愛は漫画のようにはいかないことも多いため、適度な現実感を持ちながら楽しむことが大切である。

参考文献

[1] あにこれ「放送されたおすすめアニメ一覧」

<https://www.anikore.jp/chronicle/2010/>

(2023 年 10 月 30 日確認)

[2] 東京新聞「「蛙化現象」って何のこと？どう使う？意味が変わって流行語 1 位」

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/264372>

(2023 年 11 月 15 日確認)

[3] ふじの一と「蛙化現象（かえるかげんしょう）とは？」

https://www.yamanashibank.co.jp/fuji_note/culture/kaeruka_genshou.html

(2023 年 11 月 15 日確認)

ダイエット

堀江 結衣 松瀬 愛佳 森 彩奏 良永 桃佳

中村学園大学短期大学部幼児保育学科

概要

最近では、体型を気にせず洋服を選べるようになりたいという願いからダイエットをする女性が増加している。しかし、過度なダイエットは身体に大きなデメリットを及ぼす危険がある。そこで、本研究では世界と比較した日本のダイエットの現状について考察すると共に、ダイエットの主な要因として考えられる美について、真の美とはなんであるかについて考えていく。

1 章 ダイエットについて

近年、若者の間で過度なダイエットにより拒食症などになるものが増えている。そこで、この章ではダイエットのメリットと共にデメリットについて考えていくことにする。

1.1 節 ダイエットのメリット

ダイエットを行うメリットとしては主に5つが挙げられる。[7] 1つ目は「病気のリスクが低減する」ことである。女性の場合は少しぽっちゃりしていた方が男性からの印象が良かったり、可愛らしく見えたりする場合もあるものの、肥満の方は糖尿病、高血圧、脳梗塞、心筋梗塞などの重大な病気を発症するリスクが高いと言われている。ダイエットにより病気にかからないとはい切れないが太っているよりも健康的に生活できる可能性が高まると言われている。2つ目は「ストレス耐性がよくなる」ことである。ダイエットの為に定期的に運動を行うようになると、脳からセロトニンという物質が分泌される。セロトニンは精神を安定させてくれる効果があり、この物質が体内に増えるとストレスを感じにくくなると言われている。また適度な運動はリフレッシュにもなり、運動によって心地よく疲れることで良質な睡眠を得られる。睡眠がしっかりとれていると精神的に安定しやすく、ストレス耐性が上がると考えられる。3つ目は「スタイルが良くなる」ことである。「スタイルが良くなる」ということは、ダイエットにおける大きなメリットと言われている。例えば、これまで太もものダイエットで太ももの脂肪を落とすことでジーンズと太ももの間に余裕ができてちょうど良く、あるいはゆとりを持って着られるようになる。スキニージーンズなどのタイトな服も格好良く履きこなすことができる。欲しいと思った服を「痩せている人じゃないと似合わない」と諦めた経験がある方も多いと思われるが、これまで挑戦できなかったファッションにも挑戦しやすくなり、おしゃれの楽しみが一層増すことになる。4つ目は「自信が持てるようになる」ことである。ダイエットをしようと思うことは、多かれ少なかれ太っている自分をコンプレックスに感じていると考えられる。ダイエットですっきりとした体を手

お問い合わせ先：〒814-0198 福岡市城南区別府5丁目7-1 中村学園大学短期大学部
幼児保育学科 橋本弘治研究室 mail:hashimot@nakamura-u.ac.jp

に入れば、コンプレックスが解消され自信が持てるようになる可能性もある。堂々とした態度と取れるようになり、仕事などに良い影響を及ぼす可能性も考えられる。5 つ目は「周囲からの評判が上がる」ことである。痩せたことで、綺麗になった、スタイルが良くなったと感じてもらえると同時に、健康的に体を縛れている方は周囲に「自己管理が出来ている人」という印象をもってもらえるのである。

1.2 節 ダイエットのデメリット

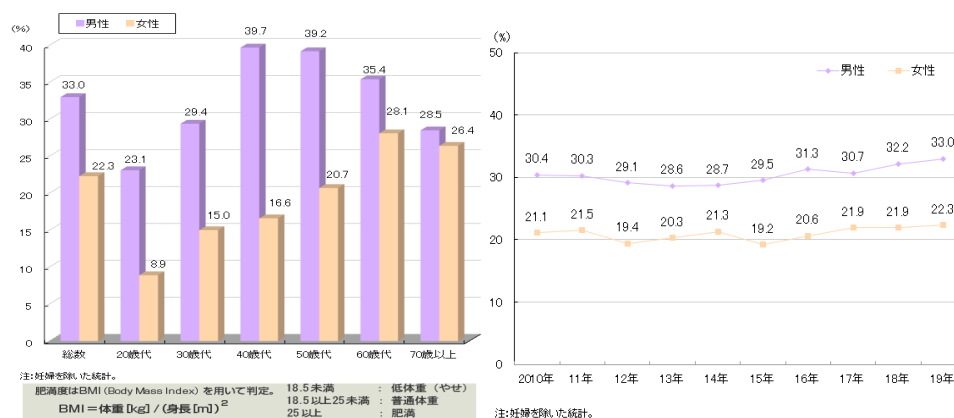
拒食症[3]とは、肥満に対する恐怖心から食べたものを吐いたり、極度のカロリー制限をしたり、又は下剤の乱用などにより 20%も体重が減少してしまう病気のことである。突然死・貧血・低血糖・不妊などの体への影響、そして集中力、判断力の低下・睡眠障害・鬱などの精神への影響などがあり、特に思春期の女性に多く周囲が心配するほど痩せていくのが特徴である。拒食症の患者は一般の若い女性に比べ、死亡リスクが約 10 倍とも言われているほどに命に関わる危険な病気である。拒食症・過食症などの摂食障害の国内の患者数は約 22 万人と推定され、死亡率は精神疾患の中では最も高率で約 5%となっている。[4][5] このような現状であるが、国内では摂食障害に対する専門性の高い治療を受けられる施設が限られているのが課題となっている。日常でできる予防法として、ストレスを溜めないこと、ダイエットは焦らず気長に行うこと、過度なダイエットの危険性を認識することが挙げられている。

2 章 肥満

この章では肥満の現状に関するデータから読み取れる肥満の実態、および、肥満を予防するための効果的な方法について考察していく。

2.1 節 肥満の現状

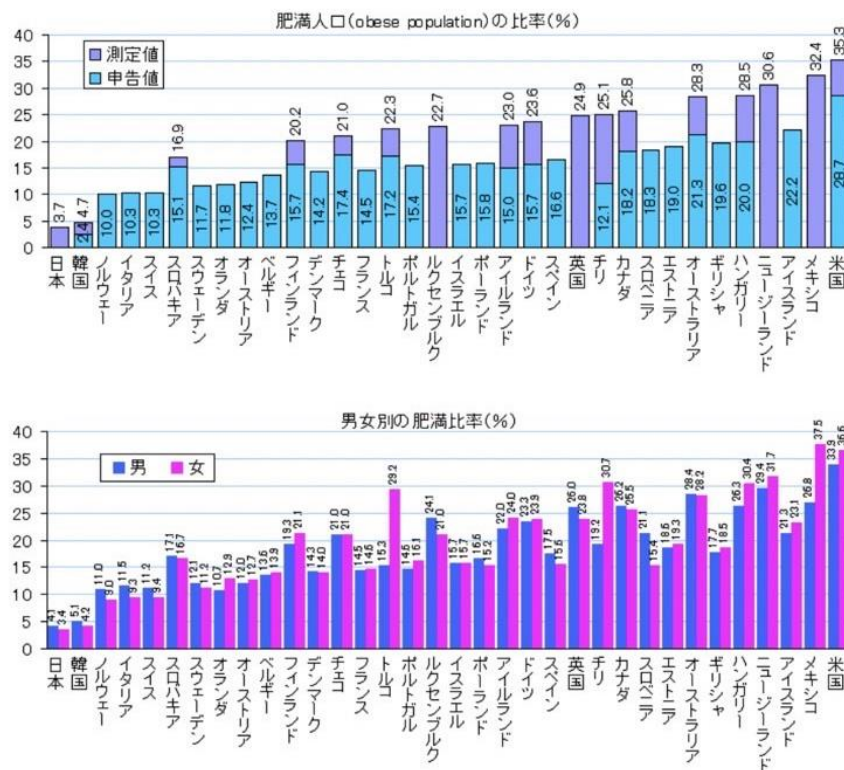
厚生労働省「国民健康・栄養調査報告」[8]によると、20 歳以上の人の肥満の割合は男性 33.0%、女性 22.3%となっている。年齢別にみると、男性では 40 歳代が 39.7%と最も多く、次いで 50 歳代が 39.2%となっている。一方で女性は高齢者で肥満の割合が高くなり、60 歳代で 28.1%と最も高くなっている。また、肥満者の割合は、男女ともこの 10 年ほぼ横ばいで推移している。



公益財団法人生命保険文化センター[8]より引用

以下は各国の OECD Health Data 2015 による BMI30 以上の人口比率[2]である。これより他国と比べると日本の肥満比率が低いことが確認されている。日本や韓国の肥満比率が低い点などから所得の高い国ほど肥満比率が高いとは必ずしも言えず、食生活様式の影響が大きいと考えられる。

肥満比率の各国比較 (OECD 諸国、2013 年までの最近年)



社会実情データ図録「肥満比率の各国比較」[1]

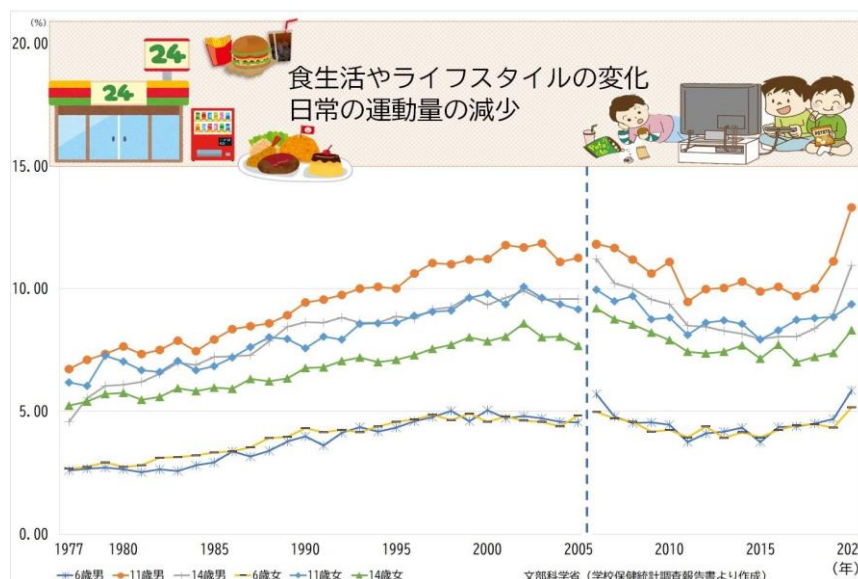
2.2 節 子どもの肥満

国際肥満学会 (IASO) や国際糖尿病連合 (IDF) などが参加している「International Task Force on Obesity (IOTF)」の調査によると、世界の 5 歳以下の子どもでは 2,200 万人以上、学齢期の子どもでは 1 億 5,500 万人が太り過ぎとなっている。また、欧州連合 (EU) では 12 歳以下で太り過ぎの子どもは 1,400 万人にのぼり、毎年 50 万人ずつ数が増えている状況である。更に、米国連邦政府の調査によると、米国では 6 歳から 19 歳の未成年者の間で、肥満の割合が 1980 年から 2002 年で 3 倍に拡大しており、途上国でも子どもの肥満は増えている。例えば、世界保健機構 (WHO) の調査によるとタイでは 5 歳から 12 歳の子どもの重度の肥満の割合は 2 年間で 12.2% から 15.6% に上昇しており、砂糖や脂肪、塩分が多く含まれる食事や運動不足など、欧米諸国で定着した生活習慣が途上国でも急増している。[1]

子どもの肥満の殆どは、単純性肥満 (原発性肥満) といって摂取エネルギーが消費エネルギー

よりも上回っているために生じるものである。日本では、1970 年代後半から 2000 年代前半にかけて食生活やライフスタイルの変化などによって、男女ともに子どもの肥満は大きく増加している。2006 年以降は減少傾向にあったが、2016 年から再び増加傾向に転じている。肥満を悪化させる要因として、食事や菓子類、ジュース類の過剰摂取、バランスの悪い食事（朝食を食べない日がある、油を使った料理をよく食べる）、長時間座ったままのゲームやテレビの長時間視聴などによる運動不足（外遊びが少ない）、睡眠時間が少ない、等が考えられている。

幼児期の肥満者は 25%、学童前期の肥満者は 40%が将来成人肥満に移行すると言われ、思春期の肥満者は体格が形成されてしまうことや生活習慣が身についてしまうことなどから実にその 70%～80%が成人肥満となる。成人肥満は、「高血圧症」「脂質異常症」「糖尿病」などの生活習慣病につながり、また、動脈硬化を促進するため将来的に「心筋梗塞」「脳卒中」の危険性も高まるのである。大人だけでなく子どもでも発症して、子どものころから動脈硬化が進行することもあり、脂肪肝や睡眠時無呼吸を起こすこともある。その為、子どもの肥満を早期に治療することが重要であり、肥満にならないように幼少期から予防に取り組むことも大切なのである。



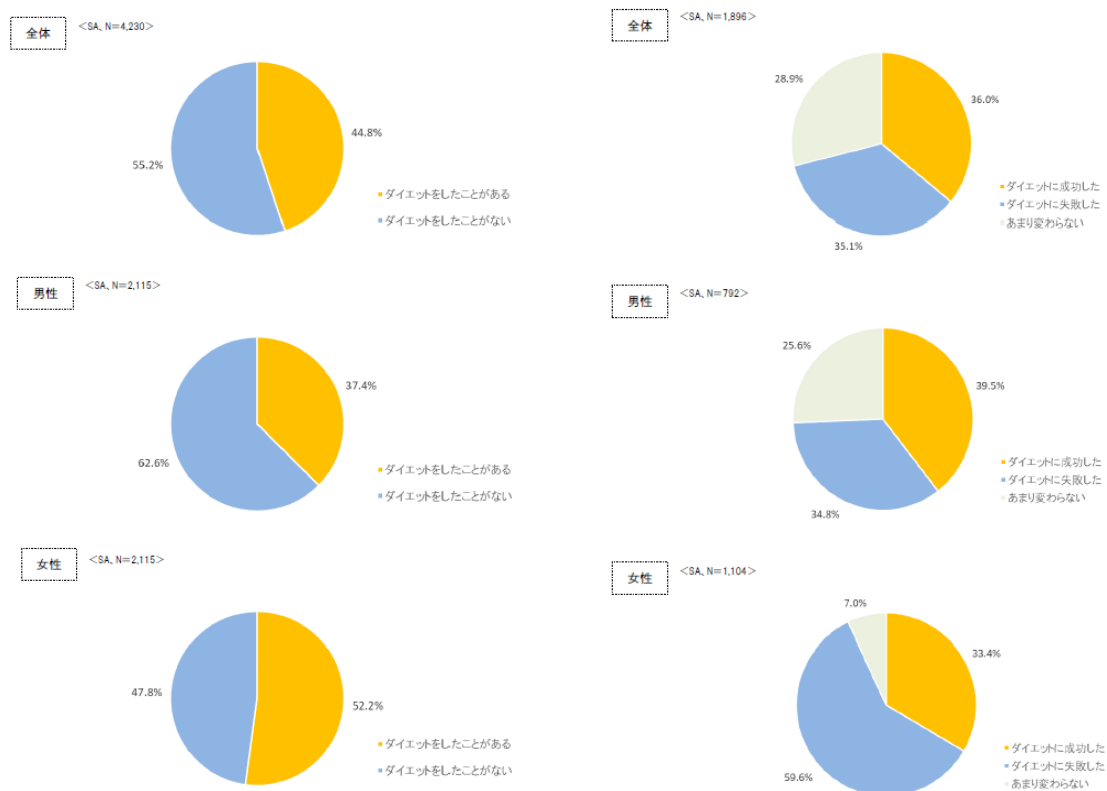
全国の肥満傾向児の推移と肥満が増加する背景[6]

肥満を予防するには、幼児期に早寝・早起き・朝ごはんの規則正しい生活リズムを身に付けることが大切である。1 日 3 回の食事と 1 回の間食を基本として、食事は大盛りにせず、一汁二菜（主食・汁物・主菜・副菜）を組み合わせ、個別に盛り付け、主菜は肉類に偏ることなく、卵類、魚介類といったもの、また、野菜や海藻を使ったよく噛んで食べるメニューを増やし、好き嫌いをなく食べられるように、そして、できるだけカロリーや塩分の多い加工品や外食、甘い飲み物は減らすことが効果的である。ゲームやスマホ、テレビの利用時間を減らし、その時間に外で遊んだり、体操やストレッチしたり、またお風呂掃除などの身体を動かすお手伝いをして、1 日合計 60 分以上の運動が更に効果的である。

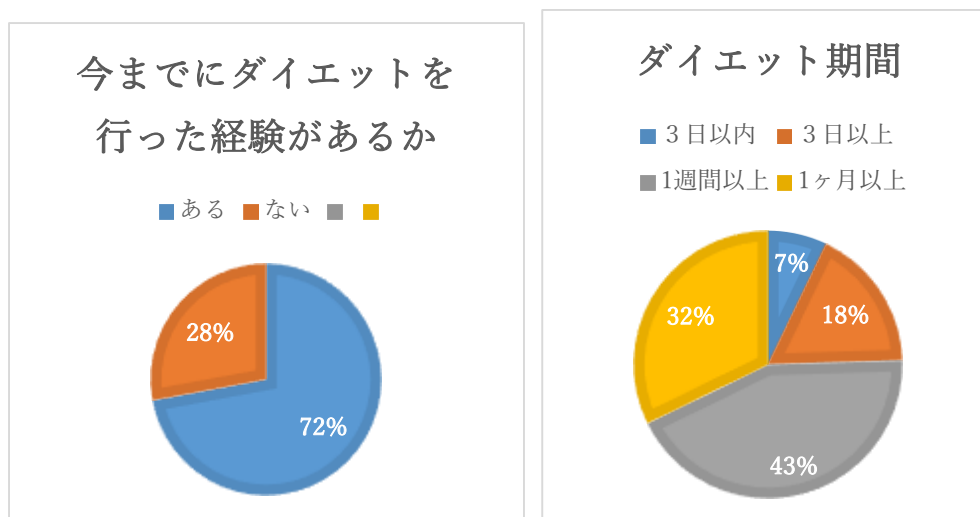
3 章 ダイエットの実態調査

ライザップ[9]によると 20 歳～69 歳の男女合わせて 4,230 人に対してダイエットについての調

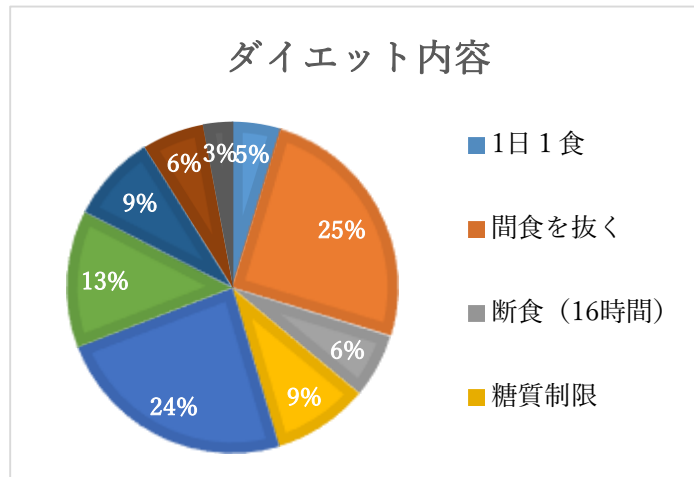
査アンケート結果、ダイエット経験者は全体が 44.8%、男性が 37.4%、女性が 52.2%であり、半数以上の女性がダイエットを一度は経験したことがあるということが分かった。また、女性の約 6 割がダイエット後にリバウンドしてダイエット前よりも体重が増えてしまっている状況が伺える結果となっている。



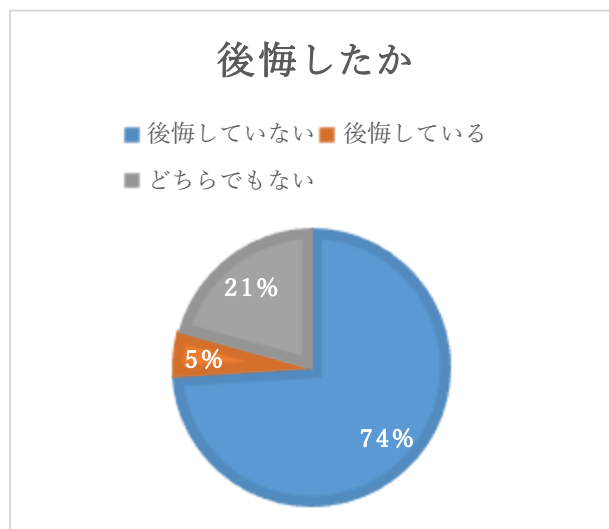
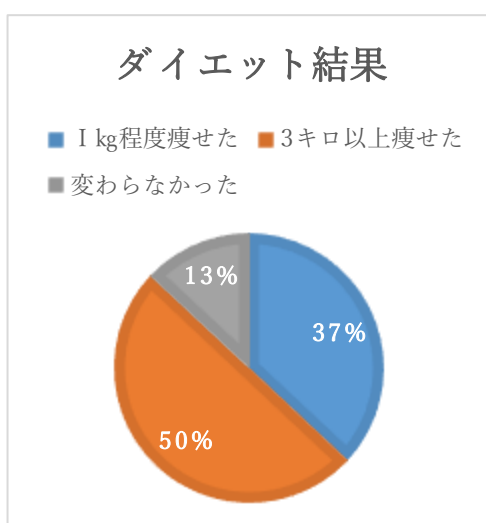
2023 年に中村学園大学短期大学部幼児保育学科に在籍している 1 年生および 2 年生、計 389 名に対してダイエットに関するアンケート調査を行った。有効回答は 215 名 (55.3%) であり、回答者の内 203 名が女性、10 名が男性、2 名がその他であった。



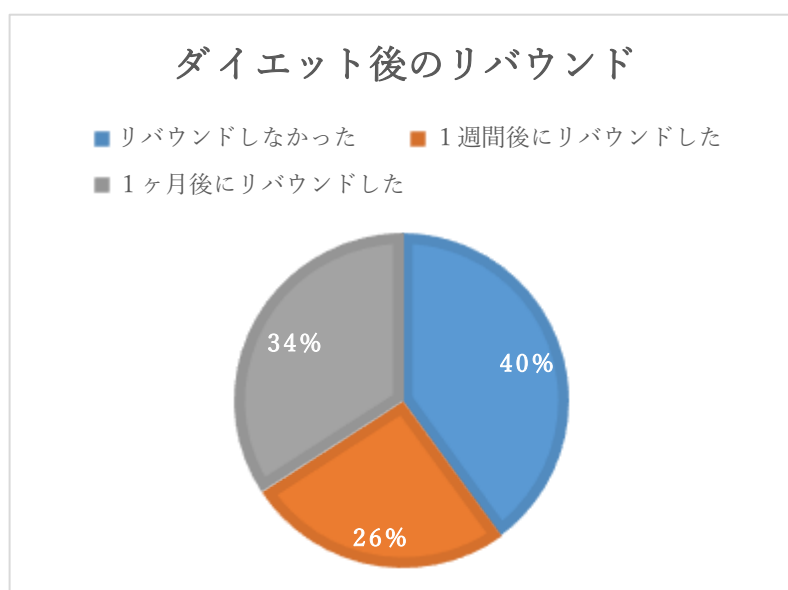
20歳前後の女性の7割にダイエット経験があり、また、ダイエット期間は1週間以上や1か月以上といったある程度長期間ダイエットを継続している状況である。これは20歳から69歳の女性のダイエット経験が52.2%であったことを考えると、若い女性ほどダイエットへの関心が高く、これが20代女性の肥満度が最も低い結果と考えられる。



ダイエットの内容としては断食や1日1食といった所謂無理なダイエットではなく、運動や間食を抜くといったどちらかという継続可能なダイエット内容が大半を占めていた。



ダイエットの効果としては、3キロ以上痩せたとの回答が半数であり、1キロ以上痩せたとの回答は全体の約9割であった。これは若者の運動不足や不規則な食生活の実態を表した結果とも考えられるが、努力に伴うダイエットの成功体験に満足していることが伺える結果となっている。



ダイエット後のリバウンドについては、20 歳から 69 歳の女性の約 6 割がリバウンドしている状況と同じ結果となっていた。

まとめ

これまで述べてきたように、日本におけるダイエットは若者が美容の為に行なっている場合が多く、世界的に肥満比率の低い日本人が過度なダイエットを行うことで拒食症に繋がるリスクが高いことに注意しなければならない。見た目の美しさにこだわる若者に言いたいことは体や心の美しさにおいて日本人は既に世界一である。日本は長寿の国であって、医師の日野原重明先生や瀬戸内寂聴先生等、有名人だけではなく周囲にも 100 歳を迎える方々がいることであろう。長寿の方々に共通することはお肉が大好きということである。また、もう一つ重要な共通していることは日々の食事の基盤は魚を毎日食するということである。古来より引き継がれた魚食文化を基盤として生きてきたことが世界で長寿の国となり、世界的にも肥満比率が少ない理由と言えるであろう。最近、子どもの肥満が最近話題となっており、子どものダイエットについての議論を耳にする。しかし、成長途中の子どもにはハンバーグやカレーライスなどを制限して成長への影響やストレスを感じる不安を考えるのではなく、日本が世界に誇る魚食文化を食育として培うことではないだろうか。

参考文献

[1] 糖尿病ネットワーク「世界の 20 億人以上が肥満か太り過ぎ 途上国や子供でも増加」

<https://dm-net.co.jp/calendar/2006/004799.php>

(2023 年 10 月 31 日確認)

[2] 社会実情データ図録「肥満比率の各国比較」(OECD 諸国、2013 年までの最近年)

<https://honkawa2.sakura.ne.jp/2220.html>

(2023 年 10 月 31 日確認)

[3] NHK「子どもの拒食症について なりやすいタイプと原因・症状・治療法」

https://www.nhk.or.jp/kenko/atc_342.html

(2023 年 11 月 15 日確認)

[4] 国立国際医療研究センター

<https://www.ncgm.go.jp/news/2021/20220208.html>

(2023 年 11 月 15 日確認)

[5] アリナミン製薬「健康サイト 拒食」

https://alinamin-kenko.jp/navi/navi_kyoshoku.html

(2023 年 11 月 15 日確認)

[6] 放射線医学県民健康管理センター「子どもの肥満は増えているの？」

https://fukushima-mimamori.jp/physical-examination/column/column_childobesity.html

(2023 年 11 月 15 日確認)

[7] 共立美容外科「ダイエットをするメリットとは？具体的なダイエット方法も併せて解説」

<https://www.kyoritsu-biyo.com/column/slim/what-are-the-benefits-of-dieting/#5>

(2023 年 12 月 7 日確認)

[8] 公益財団法人生命保険文化センター「より豊かな人生に向けた生活設計」

<https://www.jili.or.jp/lifeplan/rich/1260.html>

(2023 年 12 月 7 日確認)

[9] RIZAP「ダイエットに関する調査委」

<https://www.rizapgroup.com/news/press-releases/20190517-01/>

(2023 年 12 月 11 日確認)